科目名: 構造力学 I a		英文名: Structural Mechanics	英文名: Structural Mechanics I a		
担当者: 松岡良智					
工学科: 総合システム	学年: 3	コース: 都市環境	開講期: 前期		
科目種別: 必修	単位数: 1				
授 業 計	画	授 業 :	授 業 概 要		
授業計画 第1週カの合成と分解 第2週カの合成と分解 第4週カの合成と分解 第5週カの合成と分解 第6週カの合成と分解 第6週カの合成と分解 第7週カの合成と分解 第9週 答案返過・解答、静定構造物の支点反力 第10週静定構造物の支点反力 第113週静定構造物の支点反力 第113週静では 第13週 静文は 第14週		■授業概要・方法等 力および力の釣り合い式に重点を置き、多げモーメント)などを学習します。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによっ 1. (B-G1)構造力学で用いる専門用語のう 2. (B-G1)力の合成分解の計算方法を理会とができるようになります。 ■教科書「構造力学を学ぶ 基礎編」米田昌弘著、 ■参考文献 必要時にプリントを配布 ■関連科目 構造力学Ⅱ、構造力学Ⅲ、建築構造設計 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回)方式:記述式定期考査成績:定期試験100%で評価します最終成績:定期試験の平均点とします場別成績。定期試験の平均点とします。 80点以上「優」、60点以上~80点未満「良」「不可」 ■教員所在場所本館2階教務部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス matsuoka®ktc.ac.jp ■オフィスアワー 火曜日と水曜日の12時15分~12時55分	て、 意味を理解する。 解する。 森北出版 ¥2,600+税		

科目名: 構造力学 I b		英文名: Structural Mecha	英文名: Structural Mechanics I b	
担当者: 松岡良智		•		
工学科: 総合システム	学年: 3	コース:都市環境	開講期:後期	
科目種別: 必修	単位数: 1			
科目種別: 必修		■授業概要・方法等 力および力の釣り合い式に重点を置げモーメント)などを学習します。 ■学習・教育目標および到達目標受講者は、この授業を履修すること 1. (B-G1)梁の反力の計算方法を理 2. (B-G1)梁の応力計算により断面がことができるようになります。 ■教科書 「構造力学を学ぶ 基礎編」米田昌・参考文献 必要時にプリントを配布 ■関連科目 構造力学Ⅱ、構造力学Ⅲ、建築構造 ■成績評価方法および基準 種類:定期試験(2回)方式:記述式 定期考査成績:定期試験100%で評価 最終成績:定期試験成績の平均点と	解する。 力図がかける。 弘著、森北出版 ¥2,600+税 設計 〕します。 します。 します。 も「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未済	

科目名: 測量実習 [英文名: Surveying Practice I 担当者:中平恭之、米田耕士 工学科: 総合システム 学年: 3 コース:都市環境 開講期: 通年 科目種別:必修 単位数:3 授業計画 第 1週 講義内容の説明、トラバース測量の概要 第16週 閉合誤差の配分計算 第17週 調整緯距・経距の計算

第 2週 トラバース測量に用いる測量器械操作方法 第 3週 踏査・選点 第 4週 トラバースの角測量(1) 第 5週 トラバースの角測量(2) 第 6週 各杭の点間距離測量(1) 第 7週 各杭の点間距離測量(2) 第 8週 前期中間試験(進捗状況報告) 第 9週 実測角の点検および調整計算(1) 第10週 実測角の点検および調整計算(2)

第11週 各測線の方位角・方位の計算(1) 第12週 各測線の方位角・方位の計算(2) 第13週 各測線の緯距・経距の計算 第14週 前期期末試験(成果品提出)

第15週 講評

閉合比・閉合誤差の算出

第18週 合緯距・合経距および倍面積の計算

第19週 トラバース測量図面の作成

第20週 水準測量の説明と測量器械操作方法

第21调 縦断測量

第22週 横断測量

第23週 前期中間試験(進捗状況報告) 第24週 直接水準測量の誤差と精度の算出 第25週 縦横断測量の計算書の作成

第26週 縦断図の作成 第27週 横断図の作成 第28週 平板測量

第29週 後期期末試験(成果品提出)

第30週 講評

授業概要

■授業概要・方法など

測量実習では、測量学の講義で学んだ知識を踏まえて実習を行い、測量機器の性能, 取り扱い方法, 測量方法, データ処理の方法などを習得しま

■学習・教育目標および到達目標

受講者は、この授業を履修することによって、

1.(B-G1)各種測量機器の操作方法を理解する。

2.(B-G1)現地での測量の応用方法や実際の測設方法を理解する。

3.(B-G1)トラバース測量図面や計算書の作成方法を理解する。

4.(B-G1)水準測量図面や計算書の作成方法を理解する。

ことができるようになります。

■教科書

なし(必要時にプリントを配布)

「基礎シリーズ基本測量」 山之内繁夫、五百蔵 条編修、実教出版 ¥1,600+税 (2003)

「基礎数学」 田河 生長(代表)、大日本図書 ¥1,524+税 (2001)

■関連科目

測量学(3年生)

■成績評価方法および基準

種類:成果品提出(年2回)

定期考査成績:提出された成果品により評価(100%)します。

最終成績:定期考査成績の平均点とします。

80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未満「不可」

■教員所在場所

中平恭之:本館1階 寮務部、米田耕士:4号館都市環境コース教員室 ■授業評価アンケート実施方法

2月にアンケート用紙を配布します。

■メールアドレス

nakahira@ktc.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日と水曜日の12時15分~12時55分

科目名: 測量学 I 英文名: Surveying I 担当者: 中平恭之 学年: 3 工学科: 総合システム コース:都市環境 開講期: 前期 科目種別: 必修 単位数: 2 授業概要 授 業計画 第 1週 講義内容の説明、トラバース測量の方法およびトラバース ■授業概要・方法など の種類 測量は施設, 構造物等の計画および設計の基礎となる情報を得るための有効な 第 2週 トラバース測量の外業、踏査・選点・造標 手段です。 このような測量の意義を認識し、測量学では基礎的な測量技術とし 第 3週 交角法、偏角法について て、トラバース測量、水準測量、スタジア測量の習得を目指します。 第 4週 方位角法、距離測量の種類や測定方法について ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 第 5週 実測角の調整と誤差配分、測線の方位・方位角の計算 1. (B-G1)トラバース測量・水準測量の特徴、原理、計算を理解する。 第 6週 各測線の緯距、各測線の経距 2. (B-G1)トラバース測量の方法、計算手順を理解する。 第 7週 閉合誤差・閉合比、閉合誤差の配分手法 第 8週 中間試験 3. (B-G1)水準測量の方法、計算手順を理解する。 第 9週 答案返却・解答、コンパス法則 4. (B-G1)スタジア測量の理論と測量方法を理解する。 第10週 トランシット法則、合緯距・合経距の計算、倍面積の計算 ことができるようになります。 第11週 水準測量の概説と使用器械の説明、野帳の記入方法 ■教科書 第12週 器高式について、昇降式について 「基礎シリーズ基本測量」 山之内繁夫、五百蔵 粂編修、実教出版 ¥1,600+税 第13週 水準測量の誤差と精度、縦断測量の方法と作図、横断測 (2003)量の方法と作図、スタジア測量の理論と測量方法 ■参考文献 第14週 期末試験 「基礎数学」 田河 生長(代表)、大日本図書 ¥1,524+税 (2001) 第15週 答案返却・解答 必要時にプリントを配布 ■関連科目 測量実習(3年生) ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 定期考査成績:定期試験(90%),授業中課題(10%)で評価します。 最終成績:定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」,60点以上~80点 未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 寮務部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス nakahira@ktc.ac.jp

科目名: 地盤工学 I 英文名: Geotechnical Engineering I 担当者: 田口善文 工学科:総合システム 学年: 3 コース:都市環境 開講期: 後期 科目種別: 必修 単位数: 2 授業概要 授 業計 画 第 1週 ガイダンス、地盤と土:地盤の生成 ■授業概要•方法等 土構造物の設計や建設工事等における土の諸問題を解決するために必要な基 第 2週 地盤と土:地盤を構成する土、地盤の観察 礎知識のうち、土の基本的な性質、地盤内応力、支持力の考え方について学びま 第 3週 土の基本的性質:土の組成とその表示方法 第 4週 土の基本的性質:土粒子の大きさと分布 第 5週 土の基本的性質:土のコンシステンシー、土の分類法 ■学習・教育目標および到達目標 第 6週 土の基本的性質:土の締固め 受講者は、この授業を履修することによって、 第 7週 土の基本的性質:演習 1. (B-G1) 地盤工学で用いる専門用語の意味を理解する。 中間試験 第 2. (B-G1)土の諸量(密度、間隙比、含水比など)の計算方法を理解する。 8週 第 9週 答案迈却•解答 3. (B-G1)地盤内応力、支持力の計算方法を理解する。 地盤内の応力分布:地盤内に発生する応力の種類と解法 ことができるようになります。 第10週 地盤内の応力分布:荷重による地盤内応力、接地圧 ■教科書 第11週 地盤の支持力:荷重沈下曲線、地盤支持力の考え方 澤孝平 編著:地盤工学 第2版、森北出版 第12週 地盤の支持力:基礎の分類と形式、浅い基礎の支持力 ■参考文献 第13週 地盤の支持力:深い基礎の支持力 粟津清蔵 絵とき 土質力学 オーム社 第14週 期末試験 ■関連科目

■オフィスアワー

地盤工学Ⅱ

第15週 答案返却・解答

■成績評価方法および基準

種類:定期試験(2回), 方式: 記述式

定期考査成績:定期試験(80%)、課題(20%)として評価します。

最終成績:定期考査成績の平均とします。

80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未満

火曜日と水曜日の12時15分~12時55分

「不可」 ■教員所在場所

4号館2階 都市環境系教員室

■授業評価アンケート実施方法

2月にアンケート用紙を配布します。

■メールアドレス

taguchi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー

火曜日と木曜日の8限

科目名: 建設材料学a 英文名: Materials of Construction a 担当者: 倉本逸郎 工学科: 総合システム 学年: 3 コース:都市環境 開講期: 前期 科目種別:必修 単位数: 1 授 業概要 授 業 計 画 ■授業概要·方法 第 1週 1緒論 第 2週 2建設材料の基本的性質 2.1力学的性質 建設工事に使用される材料の性質や用途などについて基本的なことを習得しま 第 3週 2.2物理的性質 第 4週 3高分子材料 3.1合成高分子材料の種類と特性 ■学習・教育目標および到達目標 第 5週 4アスファルト 4.1製造方法 4.2アスファルトの諸性質 受講者は、この授業を履修することによって、 4.3アスファルト混合物の種類 1. (B-G1)建設材料の力学的・物理的性質を理解する。 第 6週 5複合材料 2. (B-G1)金属材料の種類、基本的性質を理解する。 ことができるようになります。 第 7週 演習 第 8週 中間試験 ■教科書 第 9週 答案返却·説明 6金属材料 6.1鉄金属 環境・都市システム系教科書「建設材料」中嶋 清実他2名 コロナ社 第10週 6.1鉄金属 ■参考文献 第11週 6.1鉄金属 使用しません。 第12週 6.2非鉄金属料 ■関連科目 コンクリート構造学、土質工学 第13週 6.2非鉄金属料、演習 第14週 期末試験 ■成績評価方法および基準種類 第15週 答案返却·説明 定期試験(2回)、方式:記述式 定期考査成績:定期試験70%、演習・課題30%として評価します。 最終成績:2回の定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未 満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 学生部 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス kuramoto@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 月曜日9限目

A) F 5 7 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		H. I. b			
科目名: 建設材料学b		英文名: Materials of Construction b			
担当者: 倉本逸郎					
工学科: 総合システム	学年: 3	コース: 都市環境	開講期:後期		
科目種別: 必修	単位数: 1				
授 業 計 画		授業概要			
第1週 7.コンクリート用材料 7.1セメ 第2週 7.1セメント 第3週 7.2骨材および水 第4週 7.2骨材および水 第5週 7.3混和材料 第6週 演習 第8週 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画 画	8.1コンクリート 3コンクリートの打ち込み	建設工事に使用される材料の性質や用途だす。 ■到達目標受講者は、この授業を履修することによって 1. (B-G1)コンクリート材料であるセメント、する。 2. (B-G1)コンクリートの特性・配合設計だる。 2. (B-G1)コンクリートの施工方法や硬化ととができるようになります。 ■教科書環境・都市システム系教科書8「建設材料■参考文献使用しません。 ■関連科目コンクリート構造学、土質工学■成績評価方法および基準種類定期試験(2回)、方式:記述式定期考査成績:定期考査成績の平均とします。	■授業概要 建設工事に使用される材料の性質や用途などについて基本的なことを習得します。 ■到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、 1. (B-G1)コンクリート材料であるセメント、骨材の製造や特性などについて習得する。 2. (B-G1)コンクリートの特性・配合設計などについて習得する。 3. (B-G1)コンクリートの施工方法や硬化コンクリートの性質を習得する。 ことができるようになります。 ■教科書 環境・都市システム系教科書8「建設材料」中嶋 清実他2名 コロナ社 ■参考文献 使用しません。 ■関連科目 コンクリート構造学、土質工学 ■成績評価方法および基準種類 定期試験(2回)、方式:記述式 定期考査成績:定期試験90%、演習・課題10%として評価します。 最終成績:定期考査成績の平均とします。 80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未満「不可」 ■教員所在場所 本館1階 学生部 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス		

科目名: 建設•建築製図 英文名: Design of Structure 担当者: 倉本逸郎 松岡良智 工学科:総合システム 学年: 3 コース: 都市環境 開講期:通年 科目種別: 必修 単位数: 3 授業概要 授業計 画 授業計画 第 1週 ガイダンス 第 2週 製図の線および文字の書き方の練習 第 3週 RC単純床版 第 4週 RC単純床版 第 5週 RC単純床版 第 6週 RC単純床版 第 7週 RC単純床版 8週 前期中間試験(課題図面提出) 第 9週 試験返し(課題講評)、RC単純床版 第10週 RC単純床版 第11週 RC単純床版 第12週 RC単純床版 第13週 RC単純床版 第14週 RC単純床版 第15週 前期期末試験(課題図面提出)第16週 試験返し(課題講評)、住宅図面 第17週 住宅図面 第18週 住宅図面 第19週 住宅図面 第20週 住宅図面 第21週 住宅図面 第22週 住宅図面 第23週 後期中間試験(課題図面提出) 第24週 試験返し(課題講評)、事務所図面 第25週 事務所図面 第26週 事務所図面 第27週 事務所図面 第28週 事務所図面 第29週 後期期末試験(課題図面提出) 第30週 試験返し(課題講評) 授業概要 ■授業概要·方法等

建設製図に関する諸規約および建設製図に関する基礎的な知識と技術を理解し、建設物の製図の基本を習得します。

■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって、

- ストロン (大変を限して) (大変を形して) (大変を限して) (大変を形して) (大変を形しなど) (大変を形しなど) (大変を形しなど) (大変を形しなど) (大変を形しなど) (大変を形しなど) (大変を形しなど
- 3.(B-G1)建築製図の基礎的知識・技術を修得する。
- とができるようになります。

■教科書

適時プリント配布

■参考書

■関連科目

測量学、測量実習、造形デザイン演習

■試験評価方法および基準

課題作品により評価を行います。

最終成績:課題図面成果品(80%),授業態度(20%)で評価します。

80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未満「不可」

■教員所在場所

倉本:本館1階 学生部、松岡:本館2階 教務部 ■授業評価アンケート実施方法

10月、2月にアンケート用紙を配布します。

■メールアドレス

倉本:kuramoto@ktc.ac.jp、松岡::matsuoka@ktc.ac.jp

■オフィスアワー

倉本:月曜日9限目、松岡:水曜日1時間目

科目名: 水理学 I a 英文名: Hydraulics I a 担当者: 中西祐啓 工学科: 総合システム 学年: 3 コース: 都市環境(土木系) 開講期: 前期 科目種別: 必修 単位数: 1 授業概要 授業計 画 第 1週 ガイダンス:授業の進め方について説明 ■授業概要•方法等 水理学とは何か・なぜ水理学を学ぶのか 建設構造物を設計・築造していく上で、水の力は主要な外力の一つです。水理学 水理学(力学)でよく使う数学について I aでは、水の力を計算するために必要な数学を理解します。また、その数学に使 第 2週 水理学で使う数学(恒等式)と電卓計算 われている関数を, 関数電卓を使って数値計算する方法を理解します。 第 3週 水理学で使う数学(式の展開と因数分解)と電卓計算 ■学習・教育目標および到達目標 第 4週 水理学で使う数学(分数の四則演算)と電卓計算 受講者は、この授業を履修することによって、 第 5週 水理学で使う数学(指数)と電卓計算 1. (B-G1)水理学で使う数学を理解する。 第 6週 水理学で使う数学(対数)と電卓計算 2. (B-G1)関数電卓で使うキーを把握する。 第 7週 水理学で使う数学(微分1)と電卓計算 ことができるようになります。 ■教科書 第 8週 中間試験 第 9週 答案返却・解答 玉井信行/有田正光共編 「大学土木水理学」 オーム社 水理学で使う数学(微分2)と電卓計算 ■参考文献 第10週 水理学で使う数学(積分1)と電卓計算 大津岩夫/安田陽一共編「水理学」 理工図書 第11週 水理学で使う数学(積分2)と電卓計算 ■関連科目 第12週 水理学で使う数学(角度の表現)と電卓計算 河川環境工学, 衛生工学 第13週 水理学で使う数学(三角関数1)と電卓計算 ■評価方法および基準 種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式 第14週 期末試験 第15週 答案返却·解答 定期考査成績: 定期試験(60%), 演習問題・宿題・レポート(40%)で評価しま 最終成績: 定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未 満「不可」 ■教員所在場所 4号館1階 水理実験室 ■授業評価アンケート実施方法 10月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス m-nakanishi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 木曜日8限

科目名: 水理学 I b 英文名: Hydraulics I b 担当者: 中西祐啓 工学科:総合システム 学年: 3 コース: 都市環境(土木系) 開講期:後期 科目種別: 必修 単位数: 1 授業概要 授業計画

第 1週 授業の進め方 水理学で使う数学(三角関数2)と電卓計算

第 2週 水理学で使う数学(図形の性質(面積))と電卓計算

第 3週 水理学で使う数学(図形の性質(図心))と電卓計算

第 4週 水理学で使う数学(図形の性質(断面0次モーメント))と 雷卓計算

第 5週 水理学で使う数学(図形の性質(断面1次モーメント))と

電卓計算 第 6週 水理学で使う数学(図形の性質(断面2次モーメント))と

電卓計算 第 7週 水理学(工学)で使う単位と電卓計算

第 8週 中間試験

第 9週 答案返却•解答 SI単位と電卓計算

第10週 密度・単位体積重量と電卓計算

第11週 表面張力・毛管現象と電卓計算

第12週 圧縮率・非圧縮性流体と電卓計算

第13週 パスカルの原理と電卓計算

第14调 期末試験

第15週 答案返却·解答

■授業概要·方法等

建設構造物を築造していく上で、水の力は主要な外力の一つです。水理学 I b では、水の力を計算するために必要な数学を理解します。さらに、水理構造物の設 計に必要な静止した水の性質を理解します

講義内容を具体的に理解できるよう、演習を随時行います。

■学習・教育目標および到達目標

受講者は,この授業を履修することによって,

1. (B-G1) 水理学で使う数学を理解する。

2. (B-G1) 関数電卓を使った水理学の基礎的計算をする。 ことができるようになります。

■教科書

玉井信行/有田正光共編「大学土木水理学」オーム社

■参考文献

大津岩夫/安田陽一共編「水理学」理工図書

■関連科目

河川環境工学, 衛生工学

■評価方法および基準

種類: 定期試験(2回), 方式: 記述式

定期考査成績:定期試験(60%), 演習問題・宿題・レポート(40%)で評価しま

最終成績:定期考査成績の平均点とします。

80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未 満「不可」

■教員所在場所 4号館1階 水理実験室

■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。

■メールアドレス m-nakanishi@ktc.ac.jp ■オフィスアワー 木曜日8限目

科目名: 建築史 I 英文名: History of Architecture I 担当者: 表寿一 専攻科:総合システム工学科 学年: 3 専攻区分: 都市環境(建築系) 開講期: 前期 科目種別: 必修 単位数: 1 授業概要 授業計画 第 1週 ガイダンス(西洋建築史) ■授業概要·方法等 第 2週 西洋建築史:古代 第 3週 エジプト・メキシコ 建築技術者(1級ならびに2級建築士)をめざす高専の学生を対象に、また、将来 第 4週 ギリシア・ローマ の意匠・デザイン専門家を目指す学生に西洋建築様式の歴史の全容を紹介しま 第 5週 中世 第 6週 ロマネスク、ゴチック、 ■学習・教育目標および到達目標 国家試験の1・2級建築士の試験合格のための基礎知識をめざします。 第 7週 ルネサンス 第 8週 バロック・ロココ 受講者は、この授業を履修することによって、 第 9週 新古典主義建築 (B-G1)建築設計・デザインのための西洋建築のさまざまな様式の設計基礎を理解 第10週 産業革命以後の建築、近代建築 する。 第11週 スチール建築、アール・ヌーヴォー、ロシア建築 ことができるようになります。 第12週 現代建築(有機的建築) ■教科書 第13週 環境配慮型建築(エコ建築) 「建築の歴史」 西田雅嗣、矢ヶ崎善太郎 著 学芸出版 ¥2,800+税 (2006) 第14週 まとめ ■参考書 第15週 期末試験 ■関連科目 4年建築史(日本建築)松岡 ■試験方法 種類: 定期試験(1回), 方式: 記述式 ■成績評価基準 定期考査成績:定期試験(80%), 宿題・レポート等(20%)で評価します。 最終成績:定期考査成績とします。 80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」,50点以上~60点未満「可」,50点未満 「不可」 ■教員所在場所: 図書館2階建築デザイン室 ■授業評価アンケート実施方法: 10月にアンケートを実施します。 ■メールアドレス: omote@ktc.ac.jp ■オフイスアワー: 火曜日と金曜日12:15~13:00

科目名: 造形デザイン演習 I		英文名: Seminar in Formative Design I			
担当者: 青木繁					
工学科: 総合システム	学年: 3	コース: 都市環境(建築系)	開講期:後期		
科目種別: 必修	単位数: 1				
授 業 計 画	Î	授 業 概 要			
授業計画 第1週 ガイダンス、デッサンとスケッチ第2週 デッサンの基本、鉛筆デッサン、グッズ第3週 点・線・面による構成1第4週 点・線・面による構成2第5週 空間理論、レンダリング(3次元表現)1第6週 空間理論、レンダリング(3次元表現)3第8週 中間試験(課題作品提出)第9週 試験返し(課題作品講評)、静物デッサンのテクニック(キャンパス屋内スケッチ)1第10週 静物デッサンのテクニック(キャンパス屋内スケッチ)2第11週 静物デッサンのテクニック(キャンパス屋内スケッチ)3第12週 建築デッサンのテクニック(キャンパス屋外スケッチ)1第13週 建築デッサンのテクニック(キャンパス屋外スケッチ)1第13週 建築デッサンのテクニック(キャンパス屋外スケッチ)2第14週 期末試験(課題作品提出)第15週 試験返し(課題作品講評)、総括		■授業概要・方法等 建築デザインに必要な造形デザインの基礎的を習得させます。 ■学習・教育目標および到達目標 受講者は、この授業を履修することによって 1.(B-G2)デッサンとスケッチによる基本的造 2.(B-G2)点・線・面による構成の基本的造形 3.(B-G2)自らイメージする建築物や造形物 表現技術を習得する。 ことができるようになります。 ■教科書 「スーパー基礎デッサン」八木秀人他著 ●参考文献 建築のかたちと空間をデザインする(彰国社) ■関連科目 造形デザイン演習Ⅱ、建築計画・デザイン演習 ■成績評価方法および基準 種類: 定期試験(2回),方式: 課題作品・1 定期考査成績:定期試験(100%)で評価しま 最終成績:定期考査成績の平均点とします。 80点以上「優」,60点以上~80点未満「良」, 満「不可」 ■教員所在場所 図書館 ■授業評価アンケート実施方法 2月にアンケート用紙を配布します。 ■メールアドレス: aokis@ktc.ac.jp	、 (形表現技術を習得する。 ジ表現技術を習得する。 をプレゼンテーションする基本的造形 プラフィック社 習、建築設計製図、卒業研究 ・ポート提出(数課題予定) す。		

■オフィスアワー: 月曜日9限